

## 『虞美人草』誰が藤尾を殺したか？

Junko Higasa 2017.10.7

標題の「誰が」という問いに対しては「男心を弄ぶ藤尾タイプの女を嫌う作者の漱石」「自我の強い藤尾自身」「優柔不断な小野さん」という答えが用意できるが、「誰が」よりも「何が藤尾を殺したか？」のほうに着目したい。

藤尾は「女の財産と美貌」を「出世の利息にする旧態の男（強権男）」と「出世の元本にする新人類の男（軟弱化男）」に挟まれた「女」であった。また結婚において「家長である男が決める制度」と「自由恋愛」という社会変遷の狭間に挟まれた女であった。藤尾は、文字通り「捌られて」いる女である。

「女の人生男次第」の時世、安泰のために裕福な結婚生活を望むなら「外交官志望の宗近君」も「博士になる小野さん」に遜色はあるまい。しかし藤尾は小野さんを選んだ。藤尾を死へ導いたものは「自由恋愛」の喪失か？あるいは「自分の意志で動かせない宗近君」ではなく「自分の意志で動かせる小野さん」という打算的選択の失敗か？

「藤尾を殺した者」は「藤尾」である。藤尾を殺した物は、「自分の価値になびかないものを手に入れたい」という「征服欲」である。自分を貫きたいという宗近君ではなく、「美貌と才能と財産」で他者より優れた自分に結婚を申し込まない小野さんに藤尾は自分を見失った。「なぶる」には「捌」「斲」の二種類がある。男女ともに、対象が一人なら心は乱れまい。